

**第23期**

**技術経営塾**

*MOT Business School*

**2014年7月25日(金)スタート**

*MOT  
Business  
School*

# 技術経営塾は

企業経営の経験者から、実際に経験した具体的な事例を交えながら**実務に役立つ技術経営を共に学ぶ塾**です。

技術経営の知識は本からでも学ぶことはできます。しかし、その知識をどのように実務に役立てるのか、実務を遂行する上でどのような障害があり、それを乗り越えるためにはどうすればいいのかということは、苦労を重ねながら技術経営を実践した人から学ぶことが必要です。

また、実際に技術経営の考えを自社に取り入れるには、苦労がつきものです。そこで大切になるのは、技術経営の考えを持っている仲間です。

技術経営塾では、各企業から選ばれた意識の高い方が集まっており、会社を超えて相談し合えるような仲間作りができます。

技術経営塾で学んだことを実際の現場で起こっている課題解決に役立て、新しい事業価値の創造にチャレンジしていただきたいと思います。

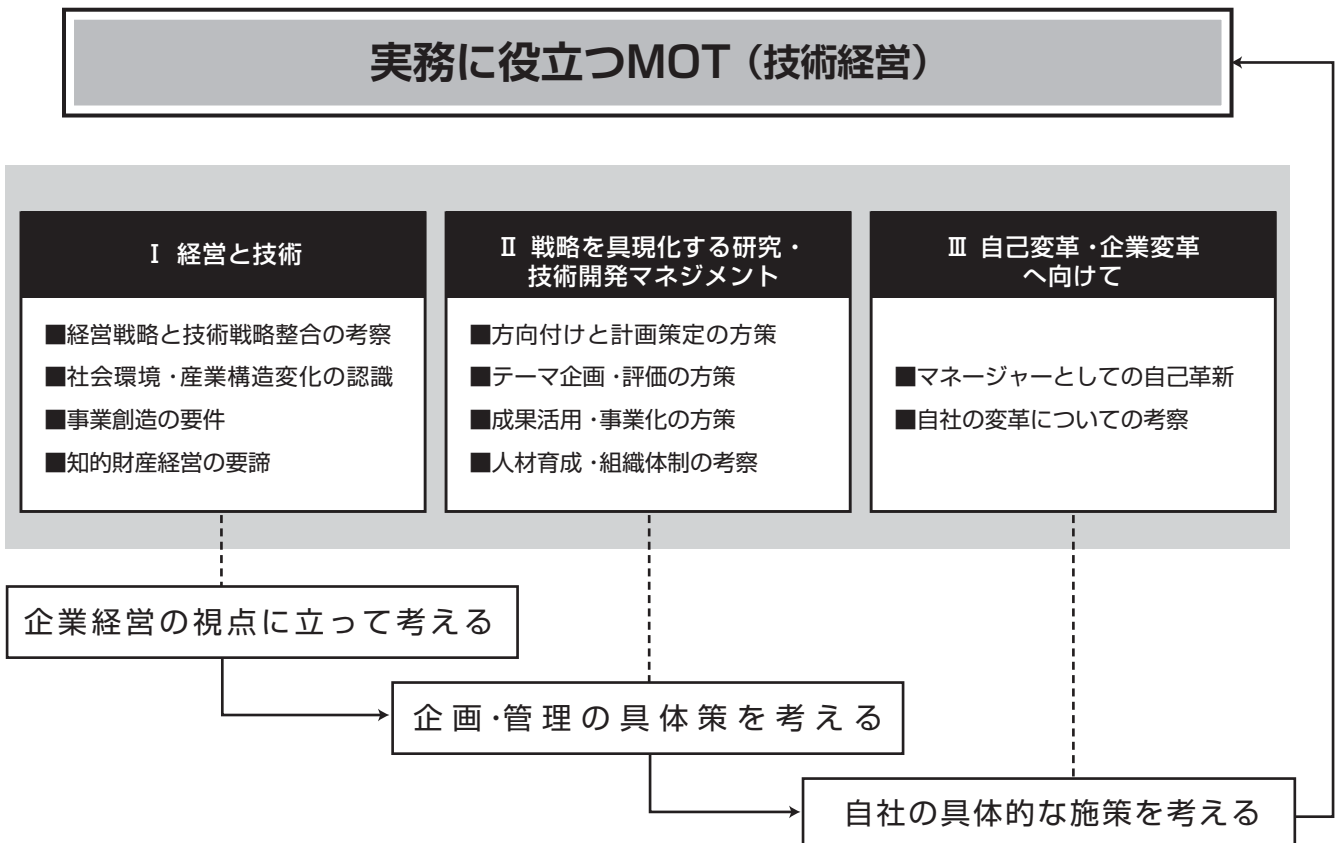
## 第23期 技術経営塾 開催要領

<対 象>	経営と技術を考え、研究・技術開発に使命感・情熱をもたれている方で積極的な意見発表と交流に参加しうる中堅幹部 ※P9をご参照ください。
<期 間>	2014年7月25日(金)～2015年6月12日(金)(毎月1回 全12会合) ※詳細日程につきましては、P4～P7をご参照ください。
<会 場>	東京都内会議室(11月/4月の合宿は静岡県のホテルを予定)

### 技術経営塾の特徴

- ① 技術経営の経験を持つ実務家のコーディネーターの方々から技術経営の本質と実践を学ぶ
- ② 実務家のゲスト講演から様々な事例を学び、自社の成長に活かす
- ③ 合宿を2回行い、塾生同志が問題提起をし合い日頃の疑問を徹底討議する
- ④ 毎回出される宿題に対して自社の現状と課題を整理・発表し課題解決につなげる
- ⑤ 1年の最後に論文を執筆し、自身のこれからの技術経営への想いや自社への提言を残す

### プログラム構成



## 指導陣プロフィール（原則として3人のコーディネーターには毎例会出席していただきます。）

### コーディネーター

<b>野津 英夫</b>	元 住友スリーエム(株) 常務取締役
--------------	--------------------



1965年 京都大学工学部合成化学科卒業、住友スリーエム株式会社入社、接着剤の開発、ビデオテープ・コンピュータ用テープ等の記録メディアの開発に従事。

1993-1996年 3M社デジタルメディア研究所部長 1996-2002年 技術本部統括部長

2002-2003年 執行役員技術担当 2004-2007年 常務取締役技術及び環境マネジメント担当

### コーディネーター

<b>赤羽 正雄</b>	信州大学 名誉教授 (元 信州大学 教授)(元 セイコーエプソン(株) 常務取締役)
--------------	---



1973年早稲田大学大学院理工学研究科（修士課程）修了。諏訪精工舎（現セイコーエプソン）入社 開発部研究員。1990年電子機器事業部海外PC設計部長。1991年 EPSON RESEARCH CENTER（米国カリフォルニア州サンバレー）シニアディレクター。1996年エプソン販売、取締役PCオペレーション部長。1999年セイコーエプソン、取締役研究開発副本部長。2003年常務取締役研究開発本部長。2007年6月同職を退任・退社。2007年6月信州大学教授に就任。2014年3月同大学定年退職。信州大学イノベーション研究・支援センター客員教授。

### コーディネーター

<b>廣瀬 貞夫</b>	ヤンマーホールディングス株式会社 取締役 (一般社団法人企業研究会 研究アドバイザー) (元 日本アイ・ビー・エム(株) 取締役)(元 京セラ(株) 顧問)
--------------	--



【略歴】1972年日本アイ・ビー・エム(株) 研究所入社、漢字プロジェクト企画。1975年IBMサンノセリサーチ赴任 日本語入力研究。1979年IBMニューヨーク本社赴任 キングストン研究所事業分析担当。1981年システム製品ビジネスユニット (SPBU) の事業計画課長。1982年システム製品ビジネスユニット (SPBU) の製造部長。1983年インフォメーション製品ビジネスユニット (IPBU) の事業管理統括部長。

1987年日本アイ・ビー・エム本社で全社の計画部長。1991年営業開発統括本部副統括本部長で2年間営業経験。1992年開発製造本部スタッフオペレーションズ統括部長として研究・開発・製造部門の人・物・金および期間計画を担当。1999年 取締役・開発製造スタッフオペレーションズ担当。2003年執行役員・開発製造スタッフオペレーションズ担当。2005年日本アイ・ビー・エム株式会社同職退任、退職と同時に京セラ株式会社に入社。事業戦略統括本部で顧問就任。2010年京セラ株式会社顧問を退職。2014年より現職。

【主な兼職歴】2002年—2007年 総務省独立行政法人評価委員会委員／2004年—2010年 国立大学法人九州工業大学監事

【主な著書】『IPD革命』編者（工業調査会2003年）『PMO構築事例・実践法』共著（ソフト・リサーチ・センター2007年）

『技術経営・技術戦略と新事業創造のマネジメント』共著（企業研究会2004年）

『グローバル競争を勝ち抜く技術経営戦略・提言』共著（企業研究会2009年）

### 講師（「知的財産活動」担当）

<b>丸島 儀一</b>	元 キヤノン株式会社 専務取締役 弁理士
--------------	----------------------



1960年早稲田大学卒業後キヤノンカメラ（現キヤノン）入社。特許部長、取締役、専務取締役、顧問を経て、2009年7月退任。役員時代に特許法務本部長、製品法務委員会委員長、新規事業育成本部長、研究・開発担当、国際標準化担当も務めた。入所以来、特許一筋の「特許人生」を歩み、複写機やプリンターの成功を特許部門から支える。ゼロックス、IBMなどアメリカ大企業との交渉に卓越した手腕を発揮した。2003年春の叙勲において、知財分野で著しい功績を上げられたことにより、黄綬褒章を受賞。

**活動の主なもの：**（社）日本経済団体連合会 知的財産問題部 会長、（社）日本国際知的保護協会 副会長、産業構造審議会知的財産政策部委員、文化審議会著作権分科会委員、知的財産教育協会検定委員、弁理士会 副会長、特許協会（現知的財産協会）理事長、金沢工業大学大学院知的創造専攻教授、東京理科大学専門職大学院客員教授などを歴任。

**主な著書：**「知的財産戦略」ダイヤモンド社、「キヤノン特許部隊」光文社新書刊、「プロパテント時代の知的財産戦略マネジメント」共著、「知財この人にきく」発明協会、「知財立国への道」知的財産推進事務局、他論文多数。

## 第23期 技術経営塾 開催にあたって

### ■コーディネーター 野津 英夫 氏からのメッセージ

技術経営については様々な定義がありますが、煎じつめれば「**技術価値の事業価値への転換**」です。そのためには理論を学ぶと同時に、理論を自ら活用して新しい事業価値の創造にリーダーシップを発揮しチャレンジして行かねばなりません。当塾では、技術経営の基本となる理論を学んでいただくと共に、それを活用して事業価値を高めるためにどのようにしたらよいかということ、実際に経験した生々しい失敗事例も交えながら教えていきます。

「他人を管理するマネジメント」ではなく、目標に向けて周りを巻き込みながら自ら変わり、変革を成し遂げる「**行動するマネジメント**」を当塾で学んでいただき、グローバル競争の中で自社の競争力の強化と持続的成長という成果に結び付けていただけることを願っています。

### ■コーディネーター 赤羽 正雄 氏からのメッセージ

研究開発から事業化までのプロセスは不確実性が高く長期にわたるため、実際に研究開発を完遂し、経済価値に結びつけるまでには様々な困難を伴います。この課題をクリアするためには、経営トップ、上司や部下、同僚、関係部門など様々な人を巻き込み、納得と共感を得、更には協力を受けながら進めていかななくてはなりません。そこでもっとも重要なことは、技術者自らが「**技術経営に関する理論武装**」することです。

当塾では、経営の話からはじまり、研究開発や事業化、知財や組織に至るまで様々なテーマを扱っていきます。1年を終えるころには、それぞれのテーマに対して自分なりの考えを持って理論形成をし、周りを巻き込む力をつけていただきたいと思います。それが、様々な困難を乗り越えるバックグラウンドになるはずです。

### ■コーディネーター 廣瀬 貞夫 氏からのメッセージ

企業が競争力を持ち、持続的に成長していくためには「**目まぐるしく変わる環境変化にどう対応するのか**」ということを考えなくてはなりません。そのためには、技術経営の本質を理解し、実際に起こっている課題を解決しながら自分なりの対応策を創り上げていく必要があります。

特に、多方面と関わりのあるミドルマネジメントの役割は大きく、将来を担うミドルマネジメントが早くから技術経営を学び、技術経営の視点から自部門の課題に取り組むことは企業の成長につながります。

当塾では課題発表や合宿などで現在悩んでいる自社・自身の課題を出し合う機会があります。是非、積極的に活用していただき課題解決に役立ててください。1年を通じて自社の様々な課題を解決しながら、将来経営を担う人財になっていただきたいと思います。



●セッションI● - 経営と技術 -

日程	時間	研究課題 / 講師
7月25日(金)	13:30~13:35	■ 開講挨拶
	13:35~15:35	■ 基本講義 「技術経営とは -企業経営における技術・研究開発の役割-」 講師：コーディネーター 野津 英夫氏  1. 持続的成長の達成 2. 持続的成長と研究開発の役割 3. 技術価値の事業価値への転換 4. 経営戦略と研究開発戦略の整合性
	15:45~17:00	■ オリエンテーション ⇒ コーディネーターのご紹介、塾生の自己紹介、会合の進め方の説明
	17:10~19:00	■ 懇親会
8月22日(金)	13:30~15:20	■ 基本講義「技術戦略と研究開発マネジメント」 講師：コーディネーター 廣瀬 貞夫氏  1. 激変する経営環境と研究開発に求められる事 2. 経営戦略と技術戦略 3. 研究・技術開発のマネジメント 4. 外部資源の活用とオープン・イノベーションの取り組み
	15:30~17:00	■ 課題発表、グループ討議 ⇒ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、 少人数のグループで発表・討議を行う
9月11日(木)	13:30~15:20	■ 基本講義「新規分野開拓の技術戦略と事業創造」 講師：コーディネーター 赤羽 正雄氏  1. 経営戦略、技術戦略と成長ベクトル 2. 新規分野開拓の研究・技術開発 3. 事業創造の要件 4. 事業競争力強化に向けて
	15:30~17:00	■ 課題発表、グループ討議 ⇒ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、 少人数のグループで発表・討議を行う

日程	時間	研究課題 / 講師
10月10日(金)	13:00~16:00	<b>■ 基本講義</b> <b>「知的財産経営と研究開発における知的財産戦略」</b> <b>講師：元 キヤノン株式会社 専務取締役 弁理士 丸島 儀一 氏</b> 1. 日本企業に求められる知的財産戦略とは 2. 事業と知的財産戦略を意識した研究開発 3. 研究者の知財マインド、知財センス 4. 研究開発と国際標準化活動の連動 ※講師著「知的財産戦略～技術で事業を強くするために～」を参考図書として配布いたします。
	16:10~17:00	<b>■ 課題発表、グループ討議</b> ⇒ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、 少人数のグループで発表・討議を行う
	17:10~18:40	<b>■ 合宿前事前討議</b> ⇒ 11月の合宿に向けて、具体的なテーマの絞り込み、 合宿に持ち寄る資料などを決めるための事前討議を行う
11月28日(金)・29日(土)	1日目 13:40集合 2日目 12:00解散	<b>【合宿研究会】</b> 1日目 グループ討議 約6時間 2日目 討議内容の発表、全体討議  <b>■ グループ討議テーマ</b> 1. 経営戦略と整合した研究・技術開発戦略の策定とその課題 2. 新規分野開拓のための研究・技術開発戦略の策定とその課題 3. 事業競争力強化のための知的財産戦略の策定とその課題 ※上記3テーマのうち希望テーマを1つ選んでいただき、 それに従って討議するグループを編成させていただきます。

## ●セッションII● - 戦略を具現化する研究・技術開発マネジメント -

12月19日(金)	13:00~14:20	<b>■ 基本講義 「研究・技術開発の方向付けと計画化」</b> <b>講師：コーディネーター 野津 英夫 氏</b> 1. 事業成長の基本的枠組みと研究開発戦略 2. イノベーションとストレッチゴール 3. 新製品開発の要点 4. 価値創出のプロセスとマネジメント
	14:30~16:00	<b>■ 事例研究 「R&amp;D 戦略策定、組織再構築と推進」</b> <b>講師：R&amp;D 部門のトップマネジメントの方を予定</b>
	16:10~17:00	<b>■ 課題発表、グループ討議</b> ⇒ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、 少人数のグループで発表・討議を行う

日程	時間	研究課題 / 講師
1月16日(金)	13:00~14:20	<b>■ 基本講義</b> <b>「研究・技術開発テーマの企画・評価」</b> 講師：コーディネーター 赤羽 正雄氏 1. 現有事業領域と新規事業領域における研究開発テーマ企画 2. 技術ロードマップ／技術と市場の相関 3. 研究開発テーマ及び組織体制の評価 4. 技術開発の不確実性とそのマネジメント
	14:30~16:00	<b>■ 事例研究「研究・技術開発テーマの企画・評価」</b> 講師：R&D 企画部門マネージャーの方を予定
	16:10~17:00	<b>■ 課題発表、グループ討議</b> ⇒ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、 少人数のグループで発表・討議を行う
2月13日(金)	13:00~14:20	<b>■ 基本講義</b> <b>「研究・技術開発の成果活用と新規事業開発」</b> 講師：コーディネーター 廣瀬 貞夫氏 1. 研究開発成果の創出と活用 2. 新規事業開発と事業化移行のマネジメント 3. 新規事業の事業性評価とビジネスモデルの策定 4. 新規事業とリスクマネジメント
	14:30~16:00	<b>■ 事例研究「研究・技術開発の成果活用と新規事業開発」</b> 講師：新規事業開発担当者の方を予定
	16:10~17:00	<b>■ 課題発表、グループ討議</b> ⇒ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、 少人数のグループで発表・討議を行う
3月13日(金)	13:00~14:20	<b>■ 基本講義</b> <b>「R&amp;D 部門の人材マネジメントと組織の活性化」</b> 講師：コーディネーター 廣瀬 貞夫氏 1. 技術経営に求められる人材とは 2. R&D 技術人材マネジメントの実際 3. イノベーションを創出する人材と組織風土 4. グローバル化に伴うダイバーシティ・マネジメント
	14:30~16:00	<b>■ 事例研究「R&amp;D 部門の人材マネジメントと組織の活性化」</b> 講師：R&D 部門マネージャーの方を予定
	16:10~17:00	<b>■ 課題発表、グループ討議</b> ⇒ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、 少人数のグループで発表・討議を行う
	17:10~18:40	<b>■ 合宿前事前討議</b> ⇒ 4月の合宿に向けて、具体的なテーマ絞り込み、 合宿に持ち寄る資料などを決めるための事前討議を行う



日程	時間	研究課題 / 講師
4月10日(金)・11日(土)	1日目 13:40集合	<b>【合宿研究会】</b> 1日目 グループ討議 約6時間 2日目 討議内容の発表、全体討議  <b>■ グループ討議テーマ</b> 1. 研究・技術開発テーマの企画・立案と評価 2. 研究・技術開発の成果活用と新規事業開発 3. 研究・技術開発の人財マネジメントと組織活性化 ※上記3テーマのうち希望テーマを1つ選んでいただき、 それに従って討議するグループを編成させていただきます。
	2日目 12:00解散	

## ●セッションⅢ● - 自己変革・企業変革へ向けて -

5月15日(金)	13:30～15:20	<b>■ 基本講義</b> <b>「イノベーションの創出とマネジメント」</b> <b>講師：コーディネーター 野津 英夫氏</b>  1. テクノロジーの位置づけ 2. イノベーション持続の必須条件 3. イノベーションを育む風土と仕組み 4. 3つの能力—価値創出能力、自己変革力、人材展開力
	15:30～17:00	<b>■ 課題発表、グループ討議</b> ⇒ 前回の基本講義内容に即した課題を持ち寄り、 少人数のグループで発表・討議を行う
6月12日(金)	13:30～15:30	<b>■ 論文発表「技術経営推進への提言とその具体策」(仮題)</b> <b>(第22期テーマ) 経営環境変化をリードする</b> <b>顧客価値創造の技術経営</b> <b>発表者：優秀論文賞受賞者 3名程度</b>  ※1年間の技術経営塾における各講義の内容や、メンバー間の意見交流から得られた成果を基に5月に修了論文を執筆。指導陣の選定により優秀論文賞受賞者は最終会合で論文内容の報告を行う。 また、全員分の論文を論文集としてまとめ、配布する。
	15:30～17:00	<b>■ 総評</b> ⇒ 指導陣が修了論文に対しての講評と1年間を通しての総評を行う
	17:10～19:00	<b>■ 優秀論文賞授賞式、修了証書授与式、懇親会</b>



※基本講義では、実際に技術経営を経験したコーディネーターの方々や、実務家のゲスト講師の方から技術経営の本質と実践策を学びます。質疑応答を通じて、日頃の疑問も解決していただけます。



※課題発表・グループ討議では3つのグループで進行いたします。3人のコーディネーターの方には、各グループに1人ずつ入って指導していただけます。前回の基本講義の内容をベースに毎回宿題が出され、自社の課題を発表してグループ内で解決策を模索いたします。毎回自由席ですので、テーマに合わせて指導を受けたいコーディネーターの方がいるグループにお入りいただくことができます。



※1年間で学んでいただいた内容をベースに自社への提言として修了論文を執筆。全ての塾生の修了論文を「論文集」としてまとめて最後にお渡しさせていただきます。

### 【毎回行われる有志の懇親会】

例会が終わると、毎回、有志の方で懇親会を開催させていただきます。仕事上の悩みの相談から趣味の話まで、塾生同士、様々な話題で盛り上がっております。

コーディネーターの方にご参加いただく場合もあり、仕事の相談にのっていただいている方も多くいらっしゃいます。

懇親を深めていただくことにより、1年間の塾が終わった後でも気軽に連絡を取り合える、社外の仲間のネットワークができます。

## 技術経営塾 21~22 期参加者※所属・役職は参加時

会社名	所属	役職	会社名	所属	役職
アズビル(株)	技術開発本部 基幹技術開発部	グループ マネージャ	日清ファルマ(株)	研究開発本部 健康科学研究所	所長代理
出光興産(株)	生産技術センター プロセス技術室	精製技術 1グループリーダー	日清フーズ(株)	R&D・品質保証部	主幹
出光興産(株)	生産技術センター	主任部員	日東電工(株)	研究開発本部 多軸設計グループ	グループ長
出光興産(株)	生産技術センター プロセス技術室		日東電工(株)	環境・ エネルギー研究センター	第1グループ長
オムロン(株)	技術・知財本部技術 開発センタ	センタ長	日東電工(株)	基盤機能材料事業部門 構造材料事業部	開発部長
花王(株)	BC研究センター ヘアビューティ研究所	室長	日東電工(株)	基盤機能材料事業部門 自動車材料事業部	開発部長
花王(株)	ハウスホールド研究所	主任研究員 グループリーダー	日東電工(株)	開発統括部 基盤技術部 新規開発グループ	主任研究員
(株)カネカ	医療器事業部技術統括部 医療器研究グループ	生産技術 チームリーダー	日本化薬(株)	研究開発本部 機能化学品研究所第2グループ	第1開発担当 リーダー
(株)カネカ	食品事業部技術統括部 食品研究グループ	グループリーダー	日本ゼオン(株)	総合開発センター 新材料開発研究所	
(株)神戸製鋼所	技術開発本部 材料研究所材質制御研究室	室長	バンドー化学(株)	産業資材事業部技術部	部長
(株)神戸製鋼所	技術開発本部生産システム研究所 システム応用研究室	室長	バンドー化学(株)	エラストマー製品 事業本部技術部	部長
(株)神戸製鋼所	技術開発本部 開発企画部	主任部員	日立造船(株)	事業・製品開発本部 ナノ素材開発プロジェクト	プロジェクト リーダー
小林製薬(株)	将来技術開発部容器 包装技術グループ	課長	日立造船(株)	技術開発本部技術研究所 精密研究室	室長
小林製薬(株)	将来技術開発部 生産技術戦略グループ	課長	富士ゼロックス(株)	研究技術開発本部 マーケティング技術研究所	グループ長
清水建設(株)	技術研究所社会基盤 技術センター	所長	富士ゼロックス(株)	研究技術開発本部 インキュベーションセンター	チーム長
昭和産業(株)	総合研究所機能・ 素材研究室	担当課長	富士フイルム(株)	R&D統括本部 技術戦略部	主任技師
昭和産業(株)	総合研究所分析 科学研究室	課長	富士フイルム(株)	R&D統括本部 技術戦略部	技術マネージャ
仙台小林製薬(株)	生産技術グループ	係長	藤森工業(株)	研究所 機能性コーティンググループ	主任研究員
仙台小林製薬(株)	生産技術グループ		藤森工業(株)	研究所パッケージ 開発グループ	グループリーダー
(株)デンソー	基礎研究所研究企画室 研究企画2課	課長	藤森工業(株)	研究所 エンジニアリンググループ	グループリーダー
(株)デンソー	基礎研究所機能材料 研究部バイオ研究室	室長	(株)ブリヂストン	材料開発部エラストマー 開発ユニット	ユニットリーダー
日産化学工業(株)	研究企画部		(株)ブリヂストン	タイヤ開発第3本部	設計第一 グループリーダー
日清製粉(株)	研究開発本部 商品開発センター	チームリーダー	ヤンマー(株)	R&D戦略部 企画グループ	課長
(株)日清製粉グループ本社	技術本部生産技術研究所	所次長	(株)リコー	グループ技術開発本部 EE開発センター GE技術開発室	
(株)日清製粉グループ本社	R&D品質保証本部基礎研究所 微生物制御研究室	室長	(株)リコー	プラットフォーム開発室 イメージングシステム開発グループ	グループリーダー
(株)日清製粉グループ本社	基礎研究所食品加工研究室	室長	(株)リコー	研究開発本部グループ 技術企画室企画室	シニア スペシャリスト

## 第23期 技術経営塾 参加要領

### 参加費 (1名分：消費税込み)

正会員	一般
378,000円 (本体価格：350,000円)	410,400円 (本体価格：380,000円)

\* 分割・次年度支払い等可能です。お気軽にご相談ください。

\* 合宿研究会にご参加の際は別途実費(税込 27,772円)をご負担いただけます。

### 申込方法

下記、申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてお送りいただくか、WEB上からお申し込み下さい。

企業研究会ホームページ URL : <https://www.bri.or.jp>

※[TopPage]→[塾・ビジネススクール]→[第23期技術経営塾]→[参加申込フォーム]

※[第23期技術経営塾]→[詳細はこちら]をクリックすると、パンフレットがPDFでダウンロードできます。

### お申し込み先

一般社団法人 企業研究会 事業開発グループ 木村  
 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 麹町31MTビル2F  
 TEL : 03-5215-3513 FAX : 03-5215-0951~2  
 E-mail : kimura@bri.or.jp

※ご不明な点などは、上記担当者までお気軽にお問い合わせ下さい。

## 「第23期 技術経営塾」申込書

2014年 月 日

同ビジネススクールの趣旨に賛同し、下記により参加を申し込みます。

140040	23—技術経営塾	2014.07—2015.06
氏名 (フリガナ)	会社名	
所属・役職名 ※名簿を作成しますので、正式名称を詳細に記入ください。		
会社住所 〒 —	Tel	
	Fax	
	E-mail	
備考		